

男女にとらわれず、自分らしい生き方を！

～登別市男女共同参画講演会～

10月29日(金)、市民会館で『登別市男女共同参画講演会』が開かれました。この講演会は、男女の固定的な意識にとらわれず、自分らしい生き方を考えてもらおうと毎年開催されているもので、市民など約250人が参加しました。

初めに、男女共同参画社会づくりの『一行詩』の表彰式が行われ、124点（66人）の応募作品の中から、最優秀賞『君と僕 互いの力生かし合う 共同参画パートナー』の桜井英雄さん（若草町）と優秀賞の伊藤まり子さん（埼玉県さいたま市）に賞状と記念品が贈られました。

講演会では、ニットデザイナーとして活躍する広瀬光治さん（日本編物文化協会理事）が『性別にこだわらず、自分らしく輝いて』と題して、小学生のころの思い出や編み物を始めたきっかけを披露。子どもが興味を持つことには、性別に関係なく大切に伸ばしてあげてほしいと参加者に語りかけていました。

講演会終了後には指編み講習会も行われ、参加者は広瀬さんから指導を受けながら、毛糸のミニマフラーづくりを楽しみました。



▲指編み講習会

人にやさしい建物です ～葬斎場が北海道福祉のまちづくり賞最優秀賞を受賞～



10月20日(木)、道庁で平成16年度北海道福祉のまちづくりコンクール表彰式が行われ、ハード部門応募51件の中から、4月1日に供用開始した火葬場『登別市葬斎場』が、最優秀賞を受賞しました。

このコンクール（ハード部門）は、北海道が福祉的配慮に優れた公共的施設などの普及啓発のため実施しているもので、葬斎場は敷地内通路のロードヒーティングの敷設や点字ブロック、点字表示付総合案内標示板の設置のほか、多目的トイレへの点字付の案内標示、オストメイト用パウチ洗浄装置と側面の鏡設置など、福祉的な配慮が高く評価され、今回の受賞となりました。

救命率の向上に向けて ～気管挿管実施が認定される～

11月9日(火)、市消防署の救急救命士が北海道救急業務高度化推進協議会から気管挿管の実施を認められ、10日(水)から救急現場での業務に当たっています。

気管挿管は、心肺停止患者の気管に専用のチューブを挿入し、酸素を直接送り込み、気道確保する処置で、今年7月1日から所定の実習などを終えた救急救命士も、医師の指導下での実施が認められるようになりました。

今回認定された救急救命士は、北海道消防学校での講習を受講後、室蘭市内の病院で30症例の実習を行いました。

道内で実施が認められたのは、11月10日現在、札幌、旭川の両市消防本部に次いで3カ所目。市消防本部は、救命率の向上のため、順次、認定者を増やしていく予定です。

